

平成30年度 東京都立鹿本学園 学校経営報告

本校は、肢体不自由教育部門（小・中・高3学部）と知的障害教育部門（小・中2学部）の2部門に5学部を設置する新たなタイプの併置型特別支援学校として開校5年目を迎えた。学園構築期の平成26年度からの3年間、学校経営計画に「特別重点目標」を設定したことが奏功し目標を達成するとともに、併置校のメリットを生かして、キャリア教育と読書活動の充実を図った結果、2つの文部科学大臣表彰を受賞することができた。平成29年度からは開校以来教育実践の改善・充実に努めた教職員の大量異動期に入った。そこで平成29年度から31年度までの3年間のあるべき姿を「確実な教育成果を約束できる学園」とし、これまでの成果を継続・発展することに注力した。開校以来のスローガン「魅力ある併置校を目指して」を研究と教育実践に関連付け、「鹿本学園に勤務したことで自分の専門性が高まった」と教職員が自信をもって言える学校であるよう「持続可能な社会づくりに向けた教育推進校」「言語活動及び読書活動推進指定校」等の研究指定を積極的に受けカリキュラム・マネジメント等、全校的な実践研究に基づく教育を推進した。（※以下、肢体不自由教育部門をS部門又はS、知的障害教育部門をN部門又はNと表記する。）

1 今年度の取組と評価

(1) 重点目標に関する数値目標と実績値及び今年度の取組

重点目標1 併置型学園としての魅力ある教育の充実・発信 自己評価：◎

数値目標 全関係者評価「併置型学園として、特別プログラムやアート展示スペース等を拠点としたSN各学部の一体感を高め、魅力ある教育活動を推進することができていますか」 $\geq 95\%$ ⇒ **93%** 委員評価100%

取組 併置校の魅力充実プロジェクトの推進 <主管：教務部、研究育成部、サポートデスク>

- 併置型学園としての魅力ある教育活動を充実させ成果を発信（都指定校等）
「持続可能な社会づくりに向けた教育推進校」「都立特別支援学校における社会貢献活動モデル事業」「言語活動及び読書活動の充実事業研究指定校」「特別支援学校におけるスポーツ教育推進指定校」「教師養成指定校」として特色のある教育活動を展開し、全国公開研究会で成果を発表した。
- 全学園生によるピクチャープロムナードへの作品展示や合同書道展等の開催による学園の一体感を醸成した。
- 両部門合同の「読書推進月間」「読書マラソン」「多読者表彰」による読書推進を図り、年間貸出1万2千冊達成。
- 社会貢献活動、地域防災訓練への積極参加、オリ・パラ教育、理解推進での交流校との連携強化等、地域における共社会実現のための活動へ積極的に参加した。

重点目標2 効率的・機能的な学校組織の確立による組織力向上と環境整備 自己評価：◎

数値目標 委員評価「個人端末等を活用した、組織的・効率的な業務改善を推進し、ライフ・ワークバランスの意識向上を図ることができている」 $\geq 85\%$ ⇒ **86%**

取組 学園を的確に運営するシステムの更なる改善 <主管：学校経営会議、主幹主任連絡会>

- 学校評価を9月に早めPDCAサイクルの短縮を図り、学校運営連絡協議会提言を次年度計画に反映させた。
- S高等部におけるカリキュラム・マネジメントの実施や行事の時期改善等の教育課程の実施と運用上の改善を図った。
- 主任教諭が担う業務を「ミッション伝達式」を実施して明確化を図り、主幹教諭等が主任ミッション達成リストに月ごとに達成状況を記入することでOJTを推進した。

- ・意欲ある教諭を抜擢し、研究会や書籍、研究誌での発表機会の提供等による能力開発・人材育成を図った。
- ・大量異動期における校内ルールや校務ノウハウの蓄積・整理・共有の的確な実施による業務改善を図った。
- ・全教職員対象のビジネススキル研修の実施により接遇や教育相談対応等に関する対応を改善した。

重点目標3 専門性ある人材を活用した教育の充実 自己評価：◎

数値目標 委員評価「外部専門家を人事活用した教育環境整備や授業改善、教材の充実が図られている」≥85%
⇒ 100%

取組 人材活用・協働システムの更なる改善 <主管：校内支援部、教務部、自立活動担当>

- ・S学校介護職員による医療的ケアの拡大8名→13名。教員・学校介護職員・看護師との協働体制の充実と専門機関連携によって専門性向上を図った。
- ・カフェや栽培園芸のノウハウを有する企業の専門家からの助言を活用して作業学習の充実を図った。
- ・S学習指導アドバイザー等専門家を人材活用した授業改善を継続、家庭教育を支援する保護者学習会を実施した。
- ・自己申告書に個別指導の目標を明記させ、言葉・数の獲得につながる基礎的学力の向上を推進した。
- ・N発達臨床心理士を活用した授業者支援、認知発達教材の作成と教材展の開催等で個別指導の充実を図った。

(2) 目標に関する評価と取組内容

目標1 教育課程の充実 ☆社会参加に向けた確かな学力の獲得 自己評価：◎

学校評価 委員評価「カリキュラム・マネジメントを取り入れた教育課程の改善を進めるとともに運用上の適切な改善がなされている」 100%

取組 新たな教育課程の開発・実施 <主管：研究育成部・教務部>

- ・言語獲得・文字獲得に至る基礎段階の学習も含めた「国語、算数・数学」の指導を浸透させた。
- ・キャリア発達の視点を重視した学習活動を展開した。(S高類型化、障害当事者による特別授業、校外学習、宿泊学習、S虹輝祭における高等部弁論活動)
- ・スポーツ教育推進の指定校として江戸川区、近隣高校と連携したボッチャ大会の実施。オリンピック・パラリンピック(及び国際理解)教育の視点も踏まえたスポーツ教育を推進した。
- ・学園カフェや農園・アート展示スペースを拠点としたSN各学部の学習とのリンクにより学園の一体感を向上させた。
- ・自立活動カリキュラム「鹿本モデル」を実施した。外部専門家の人材活用を前提としS全教員が指導・評価の主体者となる自立活動の指導充実のため体制を変更した。

目標2 授業力の向上 ☆個別学習等の「個に応じた学習指導」の力量形成 自己評価：◎

学校評価 教職員評価「授業者支援会議や授業力向上研修の成果を、日々の指導や授業改善に活用することができたか」
91%

取組 授業力向上システムの定着 <主管：研究育成部 共管：教務部> ◆教師養成指定校

- ・教育開発委員会で本校の指導成果を全都立特別支援学校に発信し高評価を得た。
- ・授業者支援会議41回→78回実施で得たノウハウの蓄積による改善策の共有と活用を図った。
- ・S学習指導アドバイザー等外部専門家を人材活用した授業者支援・保護者支援を継続した。
- ・授業力向上・教育支援研修を実施した。(全教職員悉皆研修：年3回・地域公開研修：年1回)
- ・指導に関する説明力向上をねらいとして参観ガイドや児童生徒向け通知表を工夫し、公開の教材展を実施した。

- ・教材作成アドバイザーを活用して教材作成の活発化を図った。(1 教員1 教材作成と教材展エントリー)

目標3 言語能力の向上・読書支援の推進 ◆言語活動及び読書活動推進指定校 自己評価：◎

学校評価 保護者評価「日々の指導について、指導環境の整備や教材の工夫を進め、授業ガイドや通知表等を通し、その意図をしっかりと伝えることができているか」 95%

教職員評価「言語獲得・文字獲得に至る起訴段階の学習の指導の充実を図ることができたか」 92%

教職員評価「読み聞かせやICT等を活用した授業を行い、思考力や判断力、表現力等を伸ばす指導を進めることができたか」 94%

取組 言語能力向上、読書活動支援プロジェクトの推進 <主管：情報メディア部>

- ・他の特別支援学校に鹿本学園の読書活動・図書館運営のノウハウを提供した。
- ・両部門で弁論会、読み聞かせ、調べ学習、本の貸出等読書推進活動等の多様な言語活動を展開した。
- ・オープンライブラリーやIT等を活用した思考力、判断力、表現力等を伸ばす指導の工夫を行った。
- ・タブレット端末の活用による調べ学習の充実やプレゼンテーション能力の向上、情報モラルの定着を図った。
- ・言語能力や文字に関する能力を高めるための指導技法を学ぶ授業力向上研修を実施した。
- ・企業との共同開発研究によるマルチメディアDAISY図書の利用拡大を図り、実践事例を発表した。

目標4 児童・生徒が安心して学校生活を送れる生活指導体制の構築 自己評価：○

学校評価 保護者評価「障害特性を踏まえて安全な施設設備を整備し、万一の事故を教訓とした訓練や再発防止策の徹底を行っているか」 92%

教職員評価「 同上 」 95%

取組 安心・安全プロジェクト <主管：生活指導部、保健給食部、他>

- ・医療的ケア専用通学車両内での医ケアの安全な実施のため諸条件を整備した。
- ・N中1を対象にS高3、S中1も一部参加した宿泊防災訓練を実施し、全校的に防災教育の充実を図った。
- ・地域防災訓練へのS高生徒の参加、宿泊防災訓練時の連携等、災害時の地域との相互協力関係を強化した。
- ・万一の事故を教訓とした再発防止訓練等、事故防止策の徹底を図り、深刻な事故を減少させた。
- ・S、N両部門の教職員に対して、医療的ケアに関するアクシデントの再発防止研修を実施した。
- ・スクールバスの安全な発着体制の整備、放課後ディ送迎車両対応、一人通学のステップ指導、通学路点検等の充実を図った。

目標5 安心できる保健体制と安全で美味しい給食を提供できる体制の構築 自己評価：○

学校評価 教職員評価「適切なアレルギー対策を行うための校内体制を整え、安全でおいしい給食の提供を行うことができている」 92%

教職員評価「都方針に基づく医療的ケア制度の啓発を進め、安心・安全な医療的ケアの実現と充実を図ることができているか」 92%

取組 併置型学園に適した保健・給食システム構築プロジェクト <主管：保健給食部>

- ・大量異動期に備え、効率的・合理的な保健業務の改善を行い、業務の「見える化」を推進した。
- ・適切なアレルギー対応を行う為の教職員の資質向上及び校内体制を整備した。
- ・都方針に基づく安心・安全な医療的ケア制度の啓発並びに適正な医療的ケア体制を堅持した。
- ・学校介護職員を人材活用して医療的ケア体制の一層の充実を図った。

- ・安全で美味しい給食（約650食）の提供と人気献立、リクエスト献立等、楽しい給食の工夫を行った。

目標6 地域支援力の向上 自己評価：◎

学校評価 全関係者評価「地域との関係を深め、相互協力関係の構築がなされたか」 94%

取組 関係セクションの連携と家庭支援の充実 <主管：サポートデスク、研究育成部>

- ・江戸川区教育委員会や特別支援教室等への情報提供・情報共有に努め、連携を深めた。
- ・地域の教職員への実践的な支援として公開研修会、教材展、学校訪問、副籍に関する情報提供を行った。
- ・高等部進学及び高等部卒業後の社会参加を見据えた進路学習及び保護者支援を行った。
- ・地域で農産物の販売を開始。地域貢献活動として特別養護老人ホームで唱歌、詩の朗読、ダンスを披露した。
- ・校内の宿泊防災訓練に地域自治会役員が参加。交流教育連絡会委員に本一色自治会長を追加。
- ・特別支援教育の将来を担う次世代人材育成策として教員志望者応援講座、学校介護職員志望者見学会を開催。

目標7 魅力ある学校環境・職場環境の創出 自己評価：○

学校評価 全関係者評価「(クリーンデスクを含め)清潔で美しい学校環境を整えることができるか」 96%

全関係者評価「学校内外の活動をホームページ等の活用により情報発信することができるか」 94%

取組 オフィス化計画 <主管：経営企画室、学校安全衛生委員会、他>

- ・愛校精神の基盤となるように清潔で美しい学校環境を築く。
(きれいな廊下、掲示板の整備・活用、花壇・植込み・農場の美化・整頓、ピクチャープロムナードの展示)
- ・教育環境の充実を図るとともに、職場環境を整え、気持ちよく働ける場として整備を進めた。
(絵画作品等の常設展示、クリーン職員室・執務機の定着、リフレッシュ機会の充実)
- ・読書活動等の活字に親しむための環境整備、寄贈図書による蔵書の充実を進め、保護者による図書館整備を実施。
- ・HP（更新95回以上）やフェイスブック（更新490回以上）を活用した主要な教育活動の成果報告を実施。
- ・虹の部屋（おもちゃ図書館）収蔵の玩具の充実を図った。

目標8 新たな特別支援学校・教育部門への開設準備及び開校後支援 自己評価：○

取組 蓄積情報の提供や人材協力 <主管：教務部、他>

- ・水元小合学園肢部門と密接に連携し、合同行事、部活交流等を実施した。
- ・臨海青海特別支援学校、南花畑地区学園の開校に向けた支援や光明学園等の環境整備等での支援を行った。
- ・10周年記念に備え、成果物の収集・整理・保存・記録と発信を行った。
- ・今後の併置校開校に資するため日本特殊教育学会で「魅力ある併置校を目指した学校づくり」について発表した。

研究目標 教育活動の一層の充実につなげる全校的実践研究の推進 自己評価：◎

取組 潜在的な教育力のパッケージ化、独自資源を活用した教育の特色化 <主管：研究育成部、他>

- ・S：自立主課程・知的代替課程／「一人一人が学び輝く個別学習の指導」
- ・S：準ずる課程／「地域の中で主体的に生きる力を育む」
- ・N：小学部／「社会と関わるためのコミュニケーションスキルを育む授業」
- ・N：中学部／「社会の中で生きるためのソーシャルスキルを育む授業」
- ・セミナーA／全校で取り組んだ読書活動から得られたもの
- ・セミナーB／トークンルーム「虹の部屋」の活用Ⅲ

- ・セミナーC/ICT活用Ⅳ：機器の多様な活用で授業改善（視線入力装置の活用術）
- ・セミナーD/センター的機能としての関係諸機関への支援「特別支援教室との連携」

I 教職員個々の基本的行動指針 <主管：学校経営会議、企画調整会議>

- ① 全都教職員として学園生の規範モデルとなる行動実践
⇒ 体罰根絶を前提として、人権尊重の教育を推進した（個人情報保護、クリーンデスクを含む）。
- ② 全鹿本クオリティ・ファイルの遵守と学園教職員として誇りある行動実践
⇒ 学園理念の理解&社会人・教育公務員としての自覚をもって臨むようにスピリット&マナーを徹底した。

II 教職員個々が経営参画するための具体的行動指針 <主管：学校経営会議、企画調整会議>

取組 各自で①～⑥をプランニングし、進行管理した。 <全員、共管：副校長、室長>

- ① 教：若手等指導・改善力向上 ⇒ 授業者支援会議の授業者として積極的に参画した。
教：経験者支援・助言力向上 ⇒ 授業者支援会議の支援者として積極的に参画した。
- ② 教説明力向上（説明責任履行） ⇒ 誰にでも授業の良さが伝わるように授業参観ガイドを工夫した。
- ③ 教教科等の指導力向上 ⇒ 免許所持教科等に関する校外の研究授業等への参加を奨励した。
- ④ 全担当業務に関する専門性向上 ⇒ 担当業務に関する講習会等の受講を奨励した。
- ⑤ 教指導情報の発信力向上 ⇒ 各自が開発した指導法・教材に関し、全教員が教材展にエントリーした。
- ⑥ 教人材育成力向上 ⇒ 教育実習生・養成塾生・自主実習生の指導を通して人材育成力を磨いた。

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 東京都特別支援教育推進計画（第1・2期）及び実施計画への参画と貢献

- 臨海青海特別支援学校に学籍異動した学園生の定着支援及び今後学籍異動する学園生への継続的な支援
- 臨海青海特別支援学校への開校後支援

(2) 新中期計画を踏まえた教育指導の充実 ※新中期計画は30年度経営計画参照

- 職業教育・キャリア教育の充実
 - S：在宅・在校企業実習も含めた就労・進学の可能性追求、卒業生のフォローアップと進路情報還元
 - N：江東特支高等部職能開発科を念頭に置いた進路ガイダンスの展開及び保護者への情報提供
 - ON 中への早期からの高等部出願選択に関する情報提供と相談に基づく特別指導プログラムの提供
- 平成28年度「キャリア教育推進優良学校：文部科学大臣表彰」を受けての普及活動と成果還元
⇒S・N小学部からのキャリア教育実践の推進（キャリア発達を促す指導プログラムの開発と展開）
- 平成29年度「子供の読書活動優秀実践校：文部科学大臣表彰」を受けての普及活動と成果還元
⇒全校読書活動のノウハウ提供、アクティブ・ラーニングの視点を加味した調べ学習の展開
- 経営テーマ「魅力ある併置校としての創造的実践」の追究並びに各部門の専門性向上

(3) 人材育成の継続・充実

- 今後の併置校運営を担うリーダー人材の育成
- 授業力リーダーの育成（東京教師道場受講・修了者の成果還元と人材活用、指導教諭の人材活用）
- 将来の特別支援教育を担う若手人材の育成（教員志望者応援講座の継続との連携）

(4) 30年度学校経営報告及び学校評価に基づく対策

- 人権を尊重した呼名と言語環境の改善 → 「さん付け」と児童・生徒・教職員への丁寧な語り掛けの徹底。
- 学校評価の保護者回答率の向上 → A4片面の回答用紙として自由記述欄も縮小して負担感を軽減する。
- 情報不足のために保護者が評価できない項目 → 評価すべき事項等について事前に周知を図る。

- 開校から5年経過し保護者・教職員に理解が定着したと思われる事項も新たな転入者向けに再度周知する。
- 保護者からの改善策の提案を増やし改善を進める。